

「生きた知識」の 習得に向けて

国際情報学部国際情報学科3年
私立淑徳高校（東京都）出身

稲見 咲希



応用情報技術者試験合格

私は大学2年次の10月、応用情報技術者試験に合格しました。この試験はIPA（情報処理推進機構）によって実施されて

いる、高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能を持っていることを認定する試験です。

試験では、コンピュータサイエンスに関連する分野であるテクノロジー系、ITシス

テムの開発と運用の手法等のマネジメント系、企業活動についての基礎知識であるストラテジ系の3分野についての知識を幅広く問われます。これらはITLで学ぶことができます。「情報の仕組み」の知識との関連が大きい分野です。私はこれまでに学んだことを生かして自分自身の腕試しをしたいと考え、この試験に挑戦することを決めました。

また、私は大学入学当初から「情報の仕組み」の勉強に力を入れたと考えており、1年次には応用情報技術者の下位資格と位置付けられているITパスポートと基本情報技術者試験を受験し、合格しました。次なるステップとして、応用情報技術者試験を受験したことは、自然な流れであったともいえます。

例年であれば、この試験は年に2回、4月と10月に実施されています。当初は4月に実施される試験を受験する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となり、

目標を10月の試験に変更せざるを得ない状況になってしまいました。

しかし、コロナ禍によるステイホームによって、それまでよりも多くの時間を勉強に割くことができ、より勉強に集中できるようになりました。また、試験が半年延期になったことで試験までの時間も増え、より万全な態勢で臨むことができたのも、試験合格という良い結果につながる要因だったのではないかと感じています。

ゼミ活動を通して得た、 新たな課題

ITLでは、2年次後期からゼミが始まります。私はゼミ選択にあたって、これまでに得た知識をより実践的な場で生かしたいと考え、ITによる問題解決について扱う岡嶋ゼミに所属し、活動することを決めました。

後期に入ると実際にゼミ活動がスタートし、UCCによるゲーム制作実習、市ヶ谷

情報処理技術者試験合格証書

応用情報技術者試験

第AP-2020-04-02447号

稲見 咲希

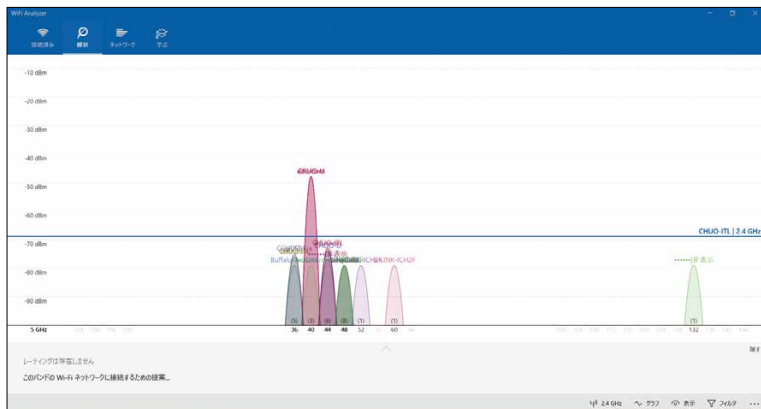
平成13年2月9日生

情報処理の促進に関する法律第29条
第1項の規定により実施した上記の試験
区分の国家試験に合格したことを証する

令和2年12月25日

経済産業大臣 梶山 弘志

応用情報技術者試験の合格証書



キャンパス内Wi-Fi電波測定データ

田町キャンパス構内のWi-Fi電波測定、外部講師をお招きしての講演会など、さまざまな活動を経験しました。ひたすら専門知識の習得に励んできたこれまでの勉強とは違い、みずから手を動かして調査やものづくりを行うことは、私にとって非常に刺激的であり、毎週楽しく活動に取り組むことができました。

一方で、活動をしていく中で、自分自身の知識不足や経験不足を痛感することもありました。それを最も強く感じたのは、市ヶ谷田町キャンパス構内のWi-Fi電波測定です。12人のゼミ生全員で分担して、キャンパス内のWi-Fi電波の速度と強度

の計測、計測データの分析を実施しました。成果発表までの期間にも余裕があり、はじめは予定通り作業が進められました。しかし、データ分析を行う段階になってから測定データの不備に気付いたり、メンバー間の役割分担を細かくしすぎた故に、一人ひとりの作業量に偏りが出たりするなど、うまくいかなかったことの方が多かったのが実情です。

最終的になんとか成果発表までこぎ着けたものの、今となっては反省点ばかりが浮ぶ、苦い経験となりました。

これからの私が目指すもの

これまでの勉強によってインプットした知識は、あくまで何かをするうえでの前提となるものです。大学の授業を受けることや、資格試験の勉強をすることで得られる知識は、次のステップへの入り口にすぎません。それを実践の場で生かし、経験を積むことで、本当の意味で自分の血肉となるのだと感じています。ただ知っているだけでは不十分です。研究や実務の場に出たときにすぐに使える知識をもっと増やしていくことが、今後の私の目標です。

これまでは、授業や試験勉強を通して、広く浅くさまざまな分野について知識のインプットを行ってきました。これからはそれに加え、特定の分野についての深い知識や経験を積みたいと考えています。そして、本当の意味での知識の習得、すなわちこれから自分の中で長く残り続ける「生きた知識」の習得に向けて研鑽を重ねていきたいです。